

自然と文化科 活動記録

日時	2024年8月16日（金）10：00～15：00	担当者
場所	クロスパル高槻：午前 公開講演会 ：午後 各種会議	文：玉尾 写真：大森・玉尾
備考	参加者数 1班19名 2班19名 3班16名 4班14名 外部8名 合計76名	

1. 講演のテーマ：「むしのうんこから命と自然を学ぶ」
2. 講演者名：伊丹市昆虫館 学芸員 角正 美雪 先生
3. 講演者略歴：1977年大阪市生まれ、大阪市育ち。2002年4月より伊丹市昆虫館学芸員。愛玩動物飼養管理士2級、こども環境管理士1級。2002年3月帯広畜産大学大学院畜産学研究科終了。企画展「むしのうんこ」の開催から図鑑絵本「むしのうんこ」（柏書房）を出版。

4. 講演要旨：

①人間と昆虫の排泄のしくみ

昆虫は食べものを胃や腸で消化し、栄養を吸収して、のこりカスをうんことして出すのは、人とおなじだが、体内の老廃物は、分解していく途中でアンモニアという有毒な物質になるため、それをマルピーギ管にて尿酸に変えて「うんことおしっこ」が一緒になって体外へ出す。

②昆虫の食性とフンの形態

うんこの形は、食べ物や体のつくりによって、種類ごとに決まってる。短い腸でも栄養分や水を沢山吸収できるように腸のカベがひだ状になっていて、そのカタチで決まる。8つに分類できる①みずうんこ②つぶつぶうんこ③ながしかくうんこ④ほそながうんこ⑤ぼこぼこうんこ⑥あなあきうんこ⑦まるうんこ⑧くねくねうんこ（講演者独自の分類）

③昆虫のフン利用

・刺激を感じると擬死して、虫のうんこになりきる（ムシクソハムシ）・鳥のうんこに擬態する（アゲハの幼虫ほか）・びちゃびちゃのうんこでさなぎになる部屋のカベを塗り固め、部屋が壊されないように強くする（カブトムシ、クワガタムシ）・うんこを泡立ててその中に身を守る（アワフキムシ）・うんこで仲間を呼び寄せる（ゴキブリ類、カシノナガキクイムシ）・アリにうんこを食べてもらって、幼虫を守ってもらう（共生）（アブラムシ）

④人と昆虫のフンのかかわり

・糞虫によって、動物のフンを片付けてくれる・中国ではお茶や漢方薬として虫糞茶や蚕沙がある・ラオスではうんこを食べる虫が食材になる・むしのうんこで染色が出来る

5. 写真



角正美雪 先生



糞のサンプル



6. 所感：

むしのうんこにフォーカスをあて、それでむしを分類するというアイデアはユニークですばらしいと思いますし、また実際に根気よくうんこを250種も収集し、出版までされてます。その努力は見習うべきところがあります。今後多くの子供たちを楽しませてください。